

ほくぶNNだより

世界かんがい施設遺産に大崎市の 「南原穴堰」が登録されました！

大崎市鳴子温泉を流れる農業用水路「南原穴堰」は、令和6年9月3日にオーストラリア・シドニーで開催されたICID（国際かんがい排水委員会）執行理事会において、歴史的、技術的価値の高い水利施設を登録する「世界かんがい施設遺産」に登録されました。なお、宮城県内では「内川（大崎市岩出山：平成28年登録）」に続き、2カ所目になります。

▶南原穴堰
令和6年6月撮影



「南原穴堰」は1640年代の藩政時代に掘削された水路です。水路の総延長は1,880mで、そのうち1,330mは素掘りの隧道となっており、約25haの農地に用水を供給しています。また、高低差5mの緩勾配で水流を促す測量技術や土砂排出を行う横穴「挟間（さま）」の仕組みなど当時最高水準の技術が凝らされICID（国際かんがい排水委員会）は、「農業とコミュニティーの発展に貢献した知恵と創意工夫」を選定理由に挙げました。

現在も水利組合が清掃作業（用水路の土砂払い等）を行うなど維持管理を欠かさず行っており、今後も”生きた遺産”の保全と利活用に意欲を燃やしています。



小牛田農林高校の2年生3名をインターンシップ生として当部で受け入れました！

10月8日から10月10日の3日間、当部にて小牛田農林高校からインターンシップ生を3名受け入れました。このインターンシップは、平成18年度から開催している小牛田農林高等学校農業農村整備事業学習会をきっかけに、高校より当部に対して、「ぜひインターンシップ生を受入れてほしい」との依頼があり、今年度初めて実施するものです。



1日目：座学



2日目：測量実習

インターンシップのプログラムは、当部に在籍する小牛田農林高校OBOG生の話し合いをもとに作られました。

座学では、OB生が講師として、農業農村整備事業の概要などの講義を行いました。また、座学だけでなく、ドローン操作実習や事業実施中の地区で構造物の高さや延長を測定する測量実習、安全パトロールなどの現地研修もあり、実際の業務により近い内容で仕事を体験してもらいました。



3日目：安全パトロール

後日行ったアンケートでは、インターンシップ生から、「授業では経験することのできない現場での実習で、楽しかった。」や「宮城県職員への興味が沸いた。」といった声がありました。

小牛田農林高等学校農業農村整備事業学習会(講義・ワークショップ)を開催しました！

令和6年12月10日に、小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの1学年を対象とした農業農村整備事業学習会を開催しました。

この学習会は、北部地方振興事務所農業農村整備部が平成18年度から毎年開催しており、今年で19年目になります。7月に開催した学習会では、ダムや頭首工など水利施設の見学や世界農業遺産について学びましたが、今回は講義やワークショップを行いました。

～講義～

- 講義①「農業土木と農業農村整備事業」
- 講義②「北部地方振興事務所の概要」
- 講義③「農業土木技師のお仕事」
- 講義④「みやぎの農業」

テーマ

「みやぎの農業・農村を守るためには」

～ワークショップ～

Step1:みやぎの農業が抱える問題

Step2:みやぎの農業・農村の魅力

Step3:みやぎの農業の将来像(夢)

講義

講義では、農業農村整備事業について理解を深めてもらうために講師は当部の若手職員が務めました。



「農業土木とは何か?」という説明から始まり、宮城県庁の組織体系についても触れ、ワークショップのヒントとなる「宮城県の農業」について説明する講義を行いました。また、小牛田農林高等学校のOBOGである職員から、現在取り組んでいる業務や入庁してからのギャップなどについても説明しました。生徒の皆さんは、先輩たちが農業土木職員として、どんな活躍をしているのかを知ることができました。

ワークショップ

それぞれのStepについて、個人で考える時間及びグループで考える時間を設け、テーマについて考えました。

Step1では、多くのグループが「高齢化」や「人手不足」を課題として挙げていました。Step2では、「お米がおいしい」、「田んぼの風景がきれい」や「自然豊か」などの魅力が挙げられました。Step3では、人手不足を解消するため、「非農家と農家の交流の場を設けるために農業体験を行うこと」や「SNSなどで農家の日常を発信して、農業の良さを知ってもらう」など、非農家が農業に関わるきっかけを作るアイデアが多く挙げられました。グループによって全く色の異なる、個性あふれるワークショップとなりました。

生徒の皆さんは、個人で考える時間では、配布した資料やタブレットなどを用いながら、黙々と作業をしていました。一方、グループで考える時間では、出たアイデアに対して、質問したり、1つのアイデアから新しいアイデアが生まれたりするなど、テーマについて、熱心に話し合いをする様子が見えました。



アンケートでは、進路を考える上で参考になった、今後の学生生活のいい刺激になったとの声がありました。また、ワークショップでは、話し合いの進め方に難しさを感じるとともに、楽しかったとの声が多くありました。

この学習会が、生徒の皆さんにとって、進路選択の一助となれば幸いです。

地域を守る！「田んぼダム」の出前講座を 開催しました！ in美里町立中埴小学校・青生小学校

令和6年11月7日及び8日に、それぞれ美里町立中埴小学校の5年生16名と青生小学校の5年生12名を対象にした「田んぼダム出前講座」を開催しました。

宮城県では近年多発する豪雨災害への対策として、水田の持つ雨水貯留能力を最大減活用し、洪水被害を緩和する「田んぼダム」の取組を推進しています。この出前講座は、小学生を対象とし、田んぼダムの仕組みや効果を知ってもらい、田んぼダムの取組への理解向上を目的としています。

今年度で、中埴小学校は3回目、青生小学校は2回目の開催となりました。

はじめに、「ちいきを守る田んぼダム～ふだんは田んぼ、ときどきダム～」と題し、ダムの仕組みや効果などについて講義しました。児童の皆さんは、社会科の授業で学ぶダムや自然災害について、思い出しながら真剣に耳を傾けていました。



▲青生小

また、同じく地域を守っている存在として、「ため池」の役割や危険性を学習しました。ため池の3つのルールを、児童自身が音読して理解を深めることができました。



▲中埴小

守ろう！ため池ルール

- 1 危険なため池に近づかない
- 2 フェンスの中に入らない
- 3 遊んだり釣りをしない

次に、美里町の農業に関するクイズを4問出題しました。正解発表の度に大きな歓声があり、児童の皆さんは、とても楽しそうに、地域の良さや農業について学んでいました。



▲中埴小

そして、通常の田んぼと田んぼダムの排水量の違いを比較することができる模型での実験では、児童の皆さんは住宅地に雨水が浸水するまでの時間が田んぼダムの方が長いことに気づき、「この間に避難することが大切だね」と理解を深めていました。



▲青生小



その後、中坪小学校では、事前に絵付けしたロート型堰板を小学校目の前の田んぼに設置し、堰板がどのように設置されるのかを見ることができました。



青生小学校では、堰板に思い思いの絵を描く活動を行いました。堰板に水が流れることを想像しながら描いたデザインや地域のキャラクターを生かしたものなど、どれもが子どもたちの田んぼダムに関する思いあふれる素敵な堰板に出来上がりました。

これらの堰板は、来年度、美里町内の田んぼに設置される予定です。

最後に、児童からは「楽しみながら学ぶことができた」との感想がありました。

児童が描いた堰板



はねりゅう

農地整備事業「勿龍地区」でサツマイモの 収穫が行われました

10月18日に、県が農地整備事業を実施している勿龍地区(大崎市鹿島台)において、サツマイモの収穫が行われました。勿龍地区では、(農法)エイト農産がサツマイモの栽培を行っています。

勿龍地区では、今年の高収益作物栽培の取り組みとして、サツマイモを0.5ha栽培しました。栽培した品種はシルクスweetという品種で、繊維が少なく、しっとりとしたなめらかな食感と上品な甘さが特徴です。生産者の方によると、今年の収穫は豊作とのことでした。



▲収穫されたサツマイモ

勿龍地区のサツマイモは、農協に出荷されており、来年度も同じ箇所での栽培を行う予定です。今後、サツマイモを栽培するエリアには、もみがら補助暗渠工(田んぼの排水性を高くする工事)を施工し、今後さらに栽培面積を広げていきます。



▲収穫の様子

宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部
〒989-6117 宮城県大崎市古川旭4丁目1番1号
(宮城県大崎合同庁舎4階)

TEL : 0229-91-0724

FAX : 0229-23-5014

ホームページ : < <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/> >

大崎地域観光PR Facebook「アイラブオオサキ」

< <https://m.facebook.com/loveosaki?rdr> >

Instagram「東北のへそ」

< https://www.instagram.com/tohoku_hesostagram/ >

Instagram「よしきたみやぎ」

< <https://www.instagram.com/yoshikitamiyagi/> >

